

原田脩記念 ギャラリー稲童館主 植田 義浩

五月晴れの連休、ギャラリーの芝生にはインディアン・テントが張られ、小学4年生の男の子と、小学2年生と保育園の2人の女の子合計3人の私の孫たちに濱田さんのお孫さんで埼玉から来た小学3年の男の子も加わってコロナ禍を避けた4泊5日のキャンプ生活がスタートしました。



インディアン・テントは高さ2メートル超、大人3～4人程度なら十分に宿泊できる広さで、少々の風ならびくともしないスグレモノです。日ごろはゲームに夢中の子供たちがキャンプでは全く違う顔を見せてくれました。女の子はタンポポの花冠を作り、男の子は虫取りトラップを仕掛けるなど、少しもじっとしていません。食事はもちろんシェフの手作り料理。お得意のタイカレーやインド激辛カレーではなく、お子様向けの柔らかな味のカレーです。外で遊びまわった子供たちの食欲の凄いこと。カレーのお代わりでシェフを喜ばせます。

パパが仕事でいない日にはベビーシッターならぬジイジシッターである私の出番ですから、酒を控えて子供たちのテントにもぐりこんで泊まります。テント生活のすばらしさは外の音が素通しで聞こえることです。雨の音、風の音、木の揺れる音などが直接響いてきて、まさしく大自然の中にいることを感じさせます。最も感動的な音は早朝5時、夜明けとともに始まる小鳥たちの囀りです。鴉の鳴き声をかき消す勢いで恋の歌を歌い合っています。この囀りかわす音楽は俳句の季語でいう「百千鳥（ももちどり）」そのものです。飯田蛇笏の名句「山鴉遠く応へて百千鳥」を思い起こしました。



ギャラリーではこの季節、山鴉とひろみシェフとの桑の実を巡る壮絶な戦いが始まりました。シェフは鴉のまだ眠っている日の出前に起きだして桑の木の下にブルーシートを敷き、真っ黒に色づいた桑の実を叩き落します。出遅れた鴉たちが桑の木に

やってきても、時すでに遅し。熟れた桑の実シェフによって確保され翌日にはジャムになっています。それでも昼間の太陽で熟れ始めた実を狙って鴉たちが桑の大木に群がります。シェフはその様子を見て鍋をガンガン叩くと鴉たちは驚いてバサバサと逃げていきますが、しばらくするとまた戻ってきてシェフのいないのを確かめて桑の木に頭を突っ込みます。天気の良い日はこうしてガンガンとバサバサが一日中繰り返されるのです。鴉たちだけではなく、散歩途中の人も桑の実に手を伸ばしてつまんで口に入れていきますが、その場合は当然黙認です。でも、大勢で桑の実を摘みに来た方には残念ながら事情を話してお断りしています。何しろジャム用のおいしい実を作るために肥料を撒いているんですから。



鴉とシェフとの桑の実争奪戦が終わったら、雑草との本格的な闘いが始まります。ここは「草刈幸男」を自称する藤川幸男さんと農業班の出番です。斜面でも使えるスグレモノの草刈機を手に入れた農業班が手をこまねいて草の成長を待っています。(待つてはいないか)

この連休の一番の仕事は収蔵庫の建設でした。もともと手狭だった収蔵庫が、寄贈された絵画などで一杯になり始めたので、開館10周年を期に新収蔵庫の建設に取り掛かりました。これまでの収蔵庫の隣にしっかりと基礎を打ち、大工さんに頼んで広さ3坪、高さ3メートルの骨組みと屋根を作ってもらいました。ここまではプロにお願いし、あとはゲンちゃんを軸とした大工班による手作り作業の開始です。新戦力として登場したのがキャンプ中の小学4年生と3年生の孫たち。この子たちが思いのほかの大活躍で断熱材の入れ込み、壁板張りの釘打ちに目を輝かせて取り組んでくれました。内装が一段落したら外壁作りです。外観を本館と同じイメージで統一するために焼き板を張り巡らすことにしました。本格的な梅雨の到来の前に完成させようと、長さ3mの外装板取り付けを買って出たのはギャラリーの長身メンバーたち。小林ドクターは聴診器をインパクトドライバーに持ち替えて、ブティック経営の量平君は手作り内装の腕を活かして、ゲンちゃんの指示に従って外装版取り付けです。





内装、外装が終わったら作品の収納スペース作りが待っています。50号の作品を60点、加えて約100点の油絵と3000点のスケッチを収容するための収納ケースを作らなければなりません。ここは原田脩の絵を熟知している新納さんと私の出番。大きさと形に合わせて、取り出しやすく、収納しやすい棚を作らなければなりません。開館11年目の始まる8月の完成を目指して作業を進めます。その頃にはワクチン接種も一段落しているでしょうから、秋には新収蔵庫完



成記念展示会を開催する予定です。コロナ後の新企画も今から準備しておかねばなりません。とりあえず秋の観月会、句会から始めようと思っています。

最後に10周年の成果の一つとして、毎週末にお客様用に作っていただいている原田美枝子さんのお菓子作りの腕前が長足の進歩をしたことをお知らせします。コーヒーと一緒に頂くチーズケーキやアップルパイの美味しいこと。あの焼酎党の濱田さんが目を細めてお菓子にかじりついているのですから。コロナが一段落しましたらぜひギャラリーに足をお運びください。シェフのコーヒーと美恵子さんのケーキでお待ちいたします。

